

今年も良い結果を期待して

新ひだか町静内地区川合牧野団地へ入牧始まる

新ひだか町静内の川合牧野団地において、5月13日に静内酪農振興会（会長 小池孝義さん）の生産者を始め、各関係機関により乳牛の入牧が行われました。

牧野団地は92ヘクタールの広大な敷地に放牧することにより、ストレスを軽減し、健康的な育成、丈夫で元気な仔牛を生ませることを目的に行っており、今年には振興会生産者7戸から集められた生後6ヶ月から24ヶ月齢までの乳牛81頭を入牧しました。

牧野入牧前には2〜3日かけて、牧区の維持管理の為に広大な敷地の有刺鉄線の修理や伸びた木の枝の伐採、老朽化した牛捕獲用の柵やゲートなどの修理を利用生産者自ら行っております。作業中に熊を目撃し駆除を依頼した年もあり、牧野の奥の水源地では熊捕獲用の罠を設置し、毎年のように捕獲しております。

入牧の際には事前に各生産者が行った妊娠鑑定に加え、コンディションチェックの為に採血や体重測定も実施し、牧区分けも月齢の近い牛ごとに実施しており、小さい牛が大きい牛にいいじめられることがなくなり、ストレス低減に効果を発揮しています。

入牧後も利用生産者が中心となり、忙しい牧草時期の間関係機関協力の元、2週間ない



上の写真のような檻に牛を入れ、ダニ除けの薬の塗布、採血、妊娠鑑定などの作業を行います。

し3週間に1回、ダニ除けの薬の塗布、妊娠鑑定、牧区移動、体調不良牛の採血を実施しています。また、今年度からは共済組合の獣医師の指導のもと、牛1頭ごとの体調管理台帳を作成し全頭獣医師のチェックを受ける体制に変更しました。前年度は体調不良で1頭の牛が途中退牧しましたが、今年度は体調不良の早期発見、早期治療を観察から行います。

7月末での状況としては、ダニの媒介するピロプラズマ病による多少の貧血がみられるものの青草を沢山食べ、体重も順調に増加しています。また、受精した牛も順調に受胎しています。

牧野での放牧は10月末まで行われる予定であり、退牧時までに1頭当たり150kg以上の体重増を目指します。



毎年入牧後は獣魂祭が開催されます。



牛たちは青草が生い茂る各牧区へ旅立っていきました。10月末の退牧までに立派になって帰ってくることを期待しています。